

団長の独り言

1月1日(日)「謹賀新年」

明けましておめでとうございます。
令和5年の幕開けです。

今年、劇団ふあんハウスにとって、更なる飛躍の年にしたいなあ〜って思っています。

なにせ25周年を迎えるんですから。

そう…25周年記念なのです。

無我夢中で活動して、あ〜という間に駆け抜けた年月だったけれど、あらためて振り返ると、トラブルやドタバタは毎回の事で解散の危機も何度かあった。本当に色々な事がありながらも、その都度乗り越えて、よくぞここまでやってこられたってそんな感じですね。

と！新年だからと言って思い出に浸っている場合じゃありません。

1月に入ったという事は、本番まで2か月を切ったって事でして、ちょっと焦ってます。

前回の団長の独り言にも描いたけれど、どうしたものか？登場して退場するだけの簡単なシーンですらつまずき、稽古が大幅に遅れてしまっていたので、年末30日(金)、9時から17時まで全員参加の中、緊急稽古を行った。

朝9時開始。

朝からの稽古ってことで、まずは身体と心をほぐしてもらおうべく、歌、踊り、殺陣と続けざまに行う。

この日の稽古場は、壁一面に鏡が貼ってあるので、全員が自然と鏡の前に集まり、己の姿を見ながら踊り歌う。

最初の頃に比べたら、全体的にまとまってきて上達はしたけれど、まだまだもっともっと特訓しなきゃいけないなあ…ってみんなも感じる。

その後、休憩を挟んで舞台美術の三井さんから送られてきた舞台の図面を皆さんに披露すると、「うお！」「へえ〜」「すごい」と歓声が沸き起こる。

正面図に関しては、まだ「ラフ」図といってキッチリと描かれたものではないけれど、これまでは漠然とした仮想舞台の中での稽古だったので、こうして「人生芸夢」という作品の中で生活をする舞台が具体的に目の前に現れると、そりゃ〜テンションもあがるってものです。早速、その図面をもとに道具類の配置を変更して稽古開始。

配置が変われば動きも変わるので、その都度芝居を止めて微調整を行いなから進めつつ、物語後半の最初の登場や、退場を絡めた稽古を重点的に行うと、各自それなりに研究していた成果が出ていたようで、前回の絶望的な芝居

からは脱却したけれど、もうひとつパツとしないので、諦めずに細かく指示を出し、何度も繰り返し返すと、ようやくく形になったので、よっしゃ！次！

なんとかエンディングの箇所まで持ち込みたいので、時計を見ながら稽古を進めるけれど、サクサクってなわけにはいかない。

それでも年内中に予定しているシーンは終わらせなきゃって焦ってしまい、先に進める事を優先しそうになる。

しかし、しっくりこない芝居をそのまま先に進めると事は、「妥協」するって事になるので、先に進めたい気持ちを抑えつつ、芝居を止めてはダメを出すってのを根気よく繰り返す。

そうこうしているうちに、あ〜と言う間にお昼の12時。

全体稽古の終了は12時まででして事にしてはけれど、ラストまで細かく稽古するには、あと30分ほど時間が欲しいところ…

それは皆も同じだったようで、稽古時間を30分延長する事を承諾してくれて、どうにかこうにかエンディングまで持って行くことが出来た。

ここで全体稽古は終了し、「よいお年を〜」との挨拶で解散したが、数名の

メンバーは、さらに特訓稽古をしたいと言って残ってくれたので、折角の機会だし、残ったメンバー達の気になる芝居、気になる癖等を、かなり厳しく指摘させていただいた。

言われた本人は、相当きつかったと思うけれど、なんとか食らいついて貰いたいとの願いから、各人に対して、遠慮なくダメを出させていただき、約3時間に渡る特訓稽古は終了した。

ずっと気になっていた役者の癖とじっくり向き合う事が出来て、年末の特訓稽古では、とても有意義な時間を過ごす事が出来た。

その成果が次の稽古で現れてくれれば先に進める事が出来る。

楽しみやら…不安やら…とにかく本番まで二か月を切ったので、のんびりしている暇はもうない。今年最初の稽古から全力で追い込んで行こうと思っている。

つてなわけで！こんな劇団ふあんハウスではございますが、本年もよろしくお願ひ致します。